

JACET中国・四国支部 Newsletter

第 30 号

目次

- | | | |
|------------------------------------|--------------|---------|
| 1. 巻頭言 | 支部長 岩中 貴裕 | pp. 1-2 |
| 2. 2022 年度秋季支部研究大会報告 | 事務局幹事 寺嶋 健史 | p. 3 |
| 3. 2022 年度支部第 2 回役員会報告 | 事務局幹事 寺嶋 健史 | p. 3-4 |
| 4. 2022 年度支部研究会 OPP イベント報告 | OPP 代表 三熊 祥文 | pp. 4-5 |
| 5. 2023 年度春季研究大会発表応募要領 | | p. 5 |
| 6. 2023 年度『JACET 中国・四国支部研究紀要』投稿募集 | | p. 6 |
| 7. 事務局だより | | pp. 6-7 |
| 編集後記 | | p. 7 |
| 【重要】 ニュースレター (NL) 配信についてお願い | | p. 7-8 |

1. 巻頭言

中国・四国支部長 岩中 貴裕

支部会員の皆様、あけましておめでとうございます。年末年始を楽しくお過ごしになられたことと思います。私は年末に久しぶりに兵庫県の城崎温泉へ行きました。おそらく前回行ったのは、8年前のことだと思います。家族と一緒に外湯巡りと温泉街の散策を楽しみ、おいしい料理を食べて仕事の疲れを癒すことができました。しっかりリフレッシュできたおかげで気持ちよく

新年のスタートを切ることができています。

コロナ渦のため、2020 年度から JACET 関連の学会はオンラインでの実施という状態が続いていますが、2022 年は大きな前進がありました。2022 年 12 月 3 日 (土) に「第 5 回 JAAL in JACET (日本応用言語学会) 学術交流集会」が立命館大学大阪いばらきキャンパスで開催されました。発表件数 30 件、SIG 発表 12 件、シンポジウム

1件、賛助会員展示15件という、非常に充実した内容でした。私も発表者として参加させていただきました。対面での学会発表は2019年10月以来のことです。久しぶりに他大学の先生方と情報交換をすることができ、充実した時間を過ごすことができました。ちなみに12件のSIG発表のうちの1つは、中国・四国支部の「アカデミック&ティーチング・ポートフォリオ」(代表:中山晃先生)です。関心のある方はぜひ、同SIGへの参加をご検討ください。近年、多くの大学が教員に対してポートフォリオの作成を求めています。中国・四国支部にはこれに対応できるSIGがありますので、ぜひ有効に活用しましょう。

この機会に、今後予定されているJACETのイベントを2つ、紹介させていただきます。1つ目は、2023年3月20日(月)~21日(火)に、文教大学東京あだちキャンパスで開催される「JACET第4回ジョイントセミナー(第49回サマーセミナー&第10回英語教育セミナー)」です。テーマは「新学習指導要領後のもとの英語教育:小・中・高・大の連携」です。関心のある方は以下のサイトをご確認ください。

<https://jacet.org/ees/>

2つ目は「JACET第62回国際大会」です。2023年8月29日(火)~31日(木)に、明治大学で開催されます。テーマは「言語教育における連携の再構築と発展」です。対面での実施は2019年以来となります。既に発表の申し込みの情報が公開されています。詳細については以下のサイトをご確認ください。

<https://www.jacet.org/convention/2023-2/call-for-papers/>

イベントの紹介はこれくらいにして最後に私が現在、取り組んでいる(正確には悪戦苦闘しながら取り組んでいる)教育について紹介させていただきます。

Cummins(1996)によると、言語能力は「会話の流暢度」、「弁別的言語能力」、「教科学習言語能力」という3つで構成されています。私が課題としているのは、いかにして自分の学生に「教科学習言語能力」を習得させるかです。「教科学習言語能力」には、日常生活では触れることのない語彙の習得、抽象概念の理解が含まれます。言語的に複雑で抽象的な文章を理解し産出する際に求められる資質・能力も「教科学習言語能力」に含まれると考えていいでしょう。この能力はTOEIC®等の試験では測定できないと私は考えています。TOEIC®等が測定しているのは基本的に言語についての知識、つまり「弁別的言語能力」です。

外国語学習にはAIに任せられる部分とAIには任せることができない部分があります。「弁別的言語能力」の習得はかなりの部分までAIに任せられるのではないのでしょうか。英文の和訳、和文の英訳、文法的な誤りの修正、英文のパラフレーズは、教員の手を借りずに学生が自律的に行うことができるようになってきました。では人間である私たちだけが指導できるものは何でしょうか。「教科学習言語能力」を育むことができるのは、人間である私たちだけではないのでしょうか。まだまだ手探りで様々な実践を試みている段階です。まとまりましたら支部の研究大会で報告させていただきます。

2023年はどんな年になるのでしょうか。コロナ禍の収束までには、もうしばらくの時間が必要なようです。しかし、大学で英語教育に携わる我々が教育者・研究者として果たすべき役割は変わりません。高度な専門知識を備えた大学英語教育のプロ集団として、今年も互いに切磋琢磨しながら成長しましょう。支部研究大会等で皆さんにお会いできるのを楽しみにしています。2023年度は春季研究大会、秋季研究大会ともに対面での実施を検討しています。会場で会いましょう。

(山口県立大学)

2. 2022 年度秋季支部研究大会報告

事務局幹事 寺嶋 健史

2022 年度 JACET 中国・四国支部研究大会は 10 月 22 日（土）にオンラインで実施しました。約 25 名の参加となりました。

研究発表は以下の 2 件でした。

- (1) 大学英語授業における心理的安全性に関する一考察 (A Note on Psychological Safety in University English Classes)
森谷浩士先生 (岡山大学)
- (2) 海外留学プログラムにおける学生の変容:BEVI を用いた分析 (Assessment of Students' Transformation in a Study Abroad Program Using BEVI)
山川健一先生 (安田女子大学)

以下、2 件の発表について簡単に説明させていただきます。1 つ目の森谷浩士先生の発表では、大学の授業で学習者の心理的安全性を高める行動をとれているか、について 3 つのリサーチクエスチョン (RQ) を立て、アンケート調査を実施したところ、学習者は心理的安全性を高めるための教師行動を高く認識し (RQ1)、心理的安全性は少し高かった (RQ2) が、両者の関連のレベルはそれほど高くない (RQ3)、という結果が報告された。教師以外にも様々な影響を与える要因が考え

られ、引き続き心理的安全性を高める教師行動を続けることで研究を進展させていくとのことでした。

2 つ目の山川健一先生の発表では、海外留学プログラムにおける学生の変容を可視化することを目的に、従来の単なるアンケートではなく、BEVI (The Beliefs, Events, and Values Inventory) というツールを用いて、約半年の北米留学を体験した大学生約 60 名を対象に、留学前後にデータ収集を行った結果、派遣先の大学によって異なる特徴が現れ、同じ言語系の学生でも特定の尺度に対して異なる振る舞いを見せるという結果が報告された。派遣先のプログラムの内容、BEVI 以外の測定方法、質的な変化などを吟味していく必要があるという課題が提示された。

どちらの研究発表も、学習者の不安、意識といった心理的变化に関する内容で、我々指導者が常に心がけておくべきことであり、さらに研究を深めていかなければならない重要なテーマといえます。

春季研究大会に続き遠隔での開催でしたが、次回 2023 年度春季支部研究大会は対面で開催する予定ですので、久しぶりに発表者や参加者同士のコミュニケーションを図ることができることと思います。

3. 2022 年度 JACET 中国・四国支部

第 2 回役員会報告

事務局幹事 寺嶋 健史

2022 年 10 月 22 日（土）に遠隔で開催された第 2 回支部役員会にて、2023 年度の事業計画（案）、予算（案）および人事（案）について話し合いが行われましたので、お

知らせいたします。

- 1) 春季研究大会
日程：2023 年 6 月 3 日(土)

- 場所：安田女子大学
(広島市安佐南区安東 6 丁目 13-1)
- 2) 秋季研究大会
日程：2023 年 10 月 14 または 21 日(土)
場所：松山大学
(松山市文京町 4-2)
- 3) Oral Presentation & Performance
(OPP) 研究会
日程：2023 年 12 月 10 日または 17 日(日)
場所：未定

- 4) 支部紀要・支部ニューズレター
・『大学英語教育学会中国・四国支部紀要』
(第 21 号)
発行：2024 年 3 月 31 日 (予定)
- ・支部ニューズレター
発行：2023 年 7 月 30 日 (第 31 号)
2024 年 1 月 20 日 (第 32 号)
(予定)

4. 2022 年度支部研究会 OPP イベント報告

OPP 代表 三熊 祥文

OPP2022 が昨年末の 12 月 18 日(日)に安田女子大学まほろばホールにて開催されました。OPP (Oral Presentation & Performance) は学習者の英語による口頭発表能力とパフォーマンス能力を高める活動の企画、準備を通してその指導方法の技能を確立することを目指したイベントです。昨年度はオンライン開催ということで、何とか復活を遂げた本イベントですが、今回は参加校の先生方および学生さんのご尽力により対面実施に漕ぎ着けることができました。もちろん、パフォーマンス時にはマウスシールドまたはマスク着用を励行し、またイベント後の交流会も簡素なものにするなど、制限は相変わらずありつつも、参加校はそれぞれコロナ前とほぼ同レベルの準備、発表ができていたことは大変喜ばしいことです。

準備過程においてはコロナ以前に ESS として参加していた大学の場合、ESS が休止状態となって参加が難しくなっているような報告も聞かれました。このような祭りのイベントが、英語パフォーマンス力を伸ばすために心を一にする学生が集うための理由となり、その集いが ESS として再結晶

するように機能すればこの上ないことです。そもそも現在の ESS の大元は、「運動会」となる「英語会」というイベントが嚆矢でした。歴史は繰り返してほしいものです。

3 年ぶりの対面実施ではありましたが、参加校のうち山口学芸大学が事情により会場で発表することが叶わなかったため、昨年も指摘したコロナ禍の皮肉な副産物である配信技術の充実により、オンラインによって参加を実現しました。会場でスクリーン上に映し出されたオンラインの映像はクリアなもので、違和感のないものとなりました。また、会場からの映像も山口に配信され、その映像の質も昨年を上回るものとなっていたと思われま。

集団に属するメンバーが互いに接近してまとまりを持つときに生み出されるある種の興奮状態、デュルケムの言う「集会的沸騰(collective effervescence)」という要因が祭りにおいてはやはり重要な役割を果たすと思われることから、基本は対面実施を堅持しながらも、オンラインにより参加と鑑賞の広がりが見られる可能性をポジティブに捉え直し、次回に繋げていきたいと思えます。

以下にプログラム（発表順）をご紹介します（記載内容は、指導教員名（敬称略）、大学名、発表タイトル、カッコ内に参加学生数）。

- ・ 平本哲嗣 安田女子大学 “The School of Songs” (20)
- ・ 二五義博・パーキン ダグラス 山口学芸大学 “Tangled and Alice in Wonderland” (10)
- ・ 山中英理子 広島国際大学 “What Is a Radiological Technologist?” (4)

- ・ 吉本和弘 県立広島大学 “Four Scenes from the Two *Alice* Stories” (10)
- ・ 三熊祥文 広島工業大学 “HIT-Chants 2022 ~ Practicing Speech Through Chants ~ Original Speech” (10)

以上、ご報告いたします。来年も皆様からのご関心、ご支援を賜りますよう、祈念しております。

(広島工業大学)

5. 2023 年度春季研究大会発表募集要領

2023 年 6 月 3 日（土）に 2023 年度春季研究大会が開催される予定です。下記のとおり、研究発表の募集をいたします。奮ってご応募ください。

支部春季研究大会

日時：2023 年 6 月 3 日（土）

場所：安田女子大学

(広島市安佐南区安東 6 丁目 13 番 1 号)

A) 応募情報（英語での併記もお願い致します）

- a. 発表題目 (Title) : 日本語と英語
- b. 種別 (Style) : 自由研究発表、実践報告、事例研究など
- c. 氏名 (Name) :
- d. 研究領域 (Research Area) :
- e. 概要 (Abstract) : 目的、背景、仮説、方法、結論、引用文献など日本語の場合は 600 字以内、英語の場合は 250 words 以内とする。
- f. 所属 (Affiliation) :
- g. 使用機器 (Equipment needed) :

h. 連絡先 (Contact Address) : メールアドレスなど

B) 申込応募期間

■2023 年 5 月 18 日（木）

午後 11 時 59 分まで

■申込先

下記支部 HP の申込フォームをご利用ください（発表、および懇親会への参加申込ができます）。

<https://ws.formzu.net/dist/S78585634/>

C) プログラムおよび発表スケジュール詳細は支部会員 ML、および支部 HP でお知らせします。（支部会員 ML へのアドレス追加をご希望の方は事務局までご連絡ください）。

■問い合わせ先

事務局幹事 寺嶋健史（松山大学）

tterashi@g.matsuyama-u.ac.jp

6. 『JACET中国・四国支部研究紀要』第21号 投稿募集

質的研究や量的研究など様々な観点に基づく論文、リサーチ・ノート、実践・研究報告、およびブックレビューの4つの分野の研究成果を発表する場として、年1回3月に支部紀要を刊行しています。

応募資格は、所定の学会費を完納した支部会員とします。ただし委嘱原稿については、この限りではありません。

投稿論文は、原則として過去2年以内に開催された国際大会および支部大会で発表を行った研究にもとづくものが望ましいです。

審査は、委嘱原稿を除き、紀要編集委員会が指名する審査員が担当し、査読の結果を踏まえて編集委員会が採用の可否を決定いたします。

JACET中国・四国HPにある投稿規程をご参照の上、奮ってご応募ください。

なお、発行までの日程は原則として下記のとおりです。

■投稿原稿締め切り：10月末

■審査結果通知：12月末

■修正原稿締め切り：1月末

■刊行：3月末

なお、投稿資格は、所定の学会費を完納した支部会員に限ります。複数名による投稿の場合には、必ず本支部会員1名を含むこととし、その他の投稿者も論文投稿時にはJACET会員でなければなりません。

投稿先：支部HPフォームズから（詳細はニューズレター次号でお知らせします。）

お問い合わせ：紀要編集委員会委員長
中山晃（愛媛大学）

E-mail:
nakayama.akira.mm@ehime-u.ac.jp

7. ～事務局だより～

2022年7月から現在までの新入会員1名をご紹介します。

★新入会員紹介★

山下 直子（香川大学）

（敬称略）

皆様、どうぞよろしく願いいたします。

支部幹事（*は事務局幹事）

寺嶋健史*（松山大学）

山中英理子（広島国際大学）

支部会計担当者

小崎順子（川崎医療福祉大学）

2023年度の支部人事および本部運営委員をお知らせいたします。支部活動発展のために力を尽くしますので、よろしく願いいたします。

★支部人事★

【支部役員】

支部長 岩中貴裕（山口県立大学）

副支部長 平本哲嗣（安田女子大学）

寺嶋健史（松山大学）

支部研究企画委員（25名）

五百藏高浩（高知県立大学）

池野修（愛媛大学）

岩井千秋（元広島市立大学）

岩中貴裕（山口県立大学）

ウィリー・イアン（香川大学）

上西幸治（元福山大学）

折本素（愛媛大学）

カワモト・ジュリア（愛媛大学）

小崎順子（川崎医療福祉大学）

小山尚史（岡山大学）

高垣俊之 (尾道市立大学)
田淵博文 (元就実大学)
寺嶋健史 (松山大学)
中住幸治 (香川大学)
中山晃 (愛媛大学)
二五義博 (山口学芸大学)
平本哲嗣 (安田女子大学)
松岡博信 (安田女子大学)
三熊祥文 (広島工業大学)
三宅美鈴 (広島国際大学)
森谷浩士 (岡山大学)
山川健一 (安田女子大学)
山中英理子 (広島国際大学)
ローレンス・ダンテ (就実大学)

【本部委員】

理事 岩中貴裕 (山口県立大学)
総務委員会 (支部事務局幹事)
寺嶋健史 (松山大学)
財務委員会 (支部会計担当者)
小崎順子 (川崎医療福祉大学)

【編集後記】

2023年になってもう20日が経過しました。1年はあっという間で、気がついたら「もういくつ寝るとお正月」になってしまっていることでしょう。

今年の干支は兎です。未だに収まらないコロナをはね除けて、高く跳躍できる良い

【重要】JACET (大学英語教育学会)

中国・四国支部ニューズレターの配信について

支部長 岩中貴裕 (山口県立大学)

中国・四国支部では、支部会員の皆様により迅速な情報提供を図るべく、2014年度よりメールにてニューズレターを配信しています。お知り合いの会員の中で、まだ登録をされていない方がおられましたら、下記要領にて登録をされますよう、お知らせください。ご協力の程、どうぞよろしくお願い

国際大会組織委員会本部
山川健一 (安田女子大学)
『JACET 通信』委員会
松岡博信 (安田女子大学)
学術出版委員会紀要担当
平本哲嗣 (安田女子大学)
学術出版委員会 Selected Papers 担当
平本哲嗣 (安田女子大学)
セミナー事業委員会
田淵博文 (元就実大学)
研究促進委員会
二五義博 (山口学芸大学)
学術交流委員会
ウィリー・イアン (香川大学)
大学英語教育学会賞運営委員会
池野修 (愛媛大学)
学術出版委員会 Selected Paper 担当
中山晃 (愛媛大学)
平本哲嗣 (安田女子大学)
寺嶋健史 (松山大学)

年になることを願います。次年度は各研究会が対面で実施されることになっていきますので、久しぶりにみなさまとお会いできることが楽しみです。

今年もどうぞよろしくお願い致します。

い致します。

1. 支部 HP (<http://jacet-chushikoku.com/>) にアクセスする。
2. 入力フォームのサイトのページ (<http://ws.formzu.net/fgen/S61768122/>) に入る。
3. ウェブの入力フォームに以下の【入力情報】を入力する。

【入力情報】

- ・お名前
- ・所属

- ・メールアドレス・支部のメーリングリストに登録を希望しますか？
 - すでに登録している
 - 希望する
- (※すでに事務局からのメールが届いている方は登録済みです。)
- ・登録を希望するメールアドレス

※ニューズレターはメール送信とともに、支部ホームページでも公開します。

なお、上記の作業についてご不明な点がありましたら、事務局幹事の寺嶋までお問い合わせください。

アドレス：tterashi@g.matsuyama-u.ac.jp

メールアドレスを変更された方は、事務局までお知らせください。

JACET 中国・四国 Newsletter 第30号

2023年1月20日 発行

発行人：JACET 中国・四国支部 支部代表 岩中 貴裕

編集：JACET 中国・四国支部 事務局幹事 寺嶋 健史

発行所：〒790-8578 愛媛県松山市文京町4番2号 松山大学 人文学部

連絡先：E-mail: tterashi@g.matsuyama-u.ac.jp